（様式4）　　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290700069		
法人名	医療法人社団　聡誠会		
事業所名	グループホームふくろう		
所在地	千葉県銚子市春日町1169		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和3年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人が経営していることで医療との連携を迅速に図ることができ、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。看護師も在職しており、日ごろの健康管理、将来的に看取り介護を希望された場合も馴染んだお部屋で最後まで過ごしていただくことができます。職員1人ひとりが入居者様の気持ちに寄り添い、いっさい拘束のない安心して過ごせる居場所作りを大切にしています。娯楽面では専門職による音楽療法を取り入れ脳の活性化、心身の健康の維持・向上を図っています。また、季節やご利用者様に合わせた行事を毎月異なった行事担当者が考え実施しています。ご家族の皆様には離れていても安心していただけるよう、ホーム全体の様子をお伝えする施設新聞『ふくろう通信」と、個人の毎日の様子をお伝えする一行日誌を毎月お届けしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームふくろう」は平屋建てのバリアフリー環境が整っており、明るく開放的な施設である。母体法人が医療法人であり、24時間連絡が可能となっており、緊急時・急変時の体制が整備されていると共に、看護資格を有する職員による、日々の健康管理・服薬管理・状態の変化に応じた適切かつ迅速な対応が、入居者や家族の安心に繋がっている。また、職員の離職が無く、定着しており、入居者及び家族に対する信頼関係が構築されている。定期的に施設広報誌「ふくろう通信」や入居者一人ひとりの毎日の生活状況を綴った「一行日記」を送付する等、家族とのつながりを大切にしており、家族からも好評を得ている。その他にも、音楽療法を取り入れ、脳の活性化や心身の健康の維持・向上を図っている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、施設近隣の散歩やドライブは行っているが、その他の外出や地域交流活動は中止している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に提示し、常に理念を振り返るようにしている。職員と利用者のその人らしわを大切に、健やかに過ごせるように日々努めている。	「のびのびとその人らしく穏やかに生活して頂きますよう支援します。」という施設理念を掲げており、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。また、会議等を通して、全職員が理念を共有できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会に参加したり、近隣施設とはお互いの行事に声を掛け合い行き来させていただいている。また、ホームの行事の際には町内会の方々にも声をかけ交流を図っている。コロナ禍ですっかり地域との交流が途絶えているが、いずれ復興できたらと思っている。	地域行事等への参加を通じて、地域との交流を図ると共に、近隣施設との交流機会が、入居者の楽しみに繋がっている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、地域との交流は行っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々を少しでも理解していただけるように、毎年市内中学校の職場体験を受け入れている、また、ボランティアを積極的に受け入れている認知症ケアに関する相談にも対応している。 コロナ禍で今年度、来年度の職場体験は中止となっており、地域貢献ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告や行事内容、職員の研修状況などを報告し、推進委員との意見交換、質疑応答を通じて、今後のサービスに反映できるように努めている。他の施設や地域の情報等を得て、実際の取り組みに活かせるよう努めている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民代表・家族・職員等が出席し、年6回開催されている。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っていると共に、身体拘束排除に関する話し合いも行っており、施設の運営やサービスの向上に繋げている。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、会議の開催は2回で、その他は構成員に資料を配布し意見を確認する形で行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域実務者会議、主任ケアマネ会議など、地域で行われる勉強会へ積極的に参加し、地域との連携を図っている、市や地域包括支援センターとも協力体制を築いている。	市とは日頃から業務全般における相談や情報交換を行うと共に、運営推進会議開催時に地域包括支援センター職員が参加して、意見・情報交換も行われており、サービスの質向上に活かしている。また、地域実務者会議や主任ケアマネ会議等の交流会を通して、相互に地域福祉の問題解決や活性化に取り組む体制が構築されている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、会議等は中止になっており、連絡を取り合う形で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3カ月に1度の勉強会を実施し職員全員の理解を深め、当初からの身体拘束をいっさい行わない介護を自信を持って実践している。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施し、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、支援方法を検討し、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束廃止・虐待防止の研修会に全員参加しており、高齢者虐待法を理解し、日々虐待が行われる事のない雰囲気作りに努めている。万一虐待があった場合も早期発見できるよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症介護実践者研修等で日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約をする際は、ご家族の疑問や不安が解消されるまで十分な説明を行うよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ふくろう通信」や「一行日誌」などでホーム内の日々の様子をお知らせしたり、その中で職員の想いもお伝えすることで、ご家族が来訪時などに意見や要望を表出しやすいように努めている。また、出された意見は必ず職員間で話し合い、今後のサービスに反映できるよう努めている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議開催時を活用し、意見や要望を引き出すための機会作りや雰囲気作りに努めている。挙がった意見・要望においては、会議・申し送りノート等にて周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。日々の生活を写真に綴った「ふくろう通信」や「一行日誌」を作成し、入居者家族に送付しており、理解促進及び信頼関係構築を図っている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、家族との面会は、ガラス越しでの面会を実施しており、家族との繋がりを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員が気軽に意見や要望を言える雰囲気を作り、しっかり聞くように心がけている。日々の申し送りやカンファレンスで意見交換した内容も代表者にも伝え、反映できるよう努めている。	ケアカンファレンスを通して、利用者の支援に関することも含め、職員の意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、支援や運営に反映させている。また、市主催の会議や研修への参加機会も確保されており、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外部主催の会議や研修は、中止となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のスキルを配慮した給与体制を取り、向上心を持って働けるように努めている。また、介護職員処遇改善交付金を申請し、介護職員の収入増を図っている、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に、認知症介護基礎研修や実践者研修、リーダー研修をはじめとする外部研修には積極的に参加できる体制を取っている。また、研修で得た知識は内部勉強会を行い、知識・情報が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される会合や研修へは積極的に参加し、同業者・多職種間との地域ネットワークを育んでいる。それらの参加、活動を通しサービス向上に取り組んでいる、		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までと違った環境下での緊張と不安を取り除き信頼関係を築くために、職員は笑顔でゆったりとした雰囲気で接するように心がけている。また生活歴や経験等の情報を活かしその人らしく暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホーム見学に来ていただき、その段階からできる限り多くの生活歴等の情報をいただき、ご家族の要望、不安等を理解し受け止めることで、ご家族の不安の軽減ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者本人・ご家族との話し合いにより、生活歴・ライフスタイルを知り、求めているサービスを把握した上で課題を明らかにし、わかりやすく説明し理解いただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ご本人が決めたり、希望を表現することを大切にしている。日常生活での手伝いを通じて昔ながらの知恵を教えてもらったり手助けしてもらえるとありがたいという、職員からの感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者本人の想いを聞いたり、心情を察し、ご家族と職員の間でその情報を共有できるように連絡を取り合い、ご本人の想いが実現できるよう、必要であればご家族に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出・外泊に柔軟性を持って対応し、ご家族をはじめご親戚やご友人が気軽に訪問できるよう努めている。また、入居時には馴染みのお店などを聞き、入居後も利用継続していただいている。馴染みのある場所へのドライブなども常時行っている。	地域の商店への買い物・地域行事や祭りへの参加等、馴染みの場所への外出を実施しており、入居者の希望に添った柔軟な外出支援を行っている。また、家族との外出・外泊・行事参加は自由となっており、家族との関係継続も支援している。近隣の施設との交流を通じて、馴染みの関係継続・新たな関係構築も支援している。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外出はドライブで対応しており、家族との外出や外泊は中止している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係は全職員が情報共有し把握している。また、ご利用者様個々の性格等も把握しており、必要時は職員が仲を取り持つなど、ご利用者様間で助け合いながら過ごせるような関係性を築けるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いなどを通して経過把握に努めている。また、契約終了後もご本人・ご家族が得たい情報がある時には情報提供をし、必要時には相談、支援できるよう努めている、		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と接する中で想いを把握し、ご家族からの情報も合わせ希望や意向に添えるように努めている。困難な場合はご本人の言葉や表情、しぐさなどから多角的に読み取り職員間で話し合い、ご家族からの意見も聞き検討している、	入所前に、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行っている。また、必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、情報や支援方法の把握に努めている。入居後は日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取り、詳細に記録している。定期的にケアカンファレンスを開催し、職員が把握した情報をもとに、入居者一人ひとりの視点に立って検討し、新しい意向や情報の共有に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聞き、ご本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取り把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりと関わる中で、日常の状態を把握し、新たな事柄や想いなど知り得た情報があったり変化があった時には申し送りやカンファレンスで確実に伝え合い、職員間で情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報、職員が日々関わりを持つ中で気づいたご本人の希望する生活や課題をアセスメントし、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。その後ご家族に提示し意見をもらい、経過をモニタリングしている、	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師等の意見も取り入れながら状況判断を行っている。定期的に計画の達成状況の確認、評価、見直しを行っており、現状に応じた介護計画の作成及び支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェックや生活状況などを客観的に、またはご本人の言葉や行動、表情などを個々に記録し職員間で共有している。介護計画の見直しの際は情報の一つとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。通院の支援や必要サービス機関の紹介、提出書類の代行など支援できるよう努めている、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に馴染みのあったお店やよく出かけていた場所などは、入居後も活用できるよう支援している、また、車いすでも出かけられる飲食店やスーパー、訪問してくれる床屋さんなどの情報収集をし、活動支援に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者またはご家族が希望している医療機関を受診している、日常の健康状態、日々のバイタルチェック表など必要な情報提供をしている。経営母体であるクリニック医師とは常時連絡が取れるようになっている。	協力病院の他、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。必要に応じて内科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、訪問看護ステーションと契約しており、看護師による健康管理・服薬管理・医療面おける相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。他に、母体法人が医療法人であり、24時間連絡が可能となっており、緊急時・急変時の体制が整備されている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護スタッフがおり、介護職とは利用者の日々の状態変化や身体面精神面での気づきや介護上の不安点などを報告、相談しながら介護に当たっている。看護職がすぐに対応できることから、早期発見、早期対応ができ、適切な医療受診への支援にもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には適切な医療、看護が受けられるようご利用者の情報提供を行っている。また、退院時は入院中の情報並びに退院後の生活上のアドバイスを受けるなど、医療機関と情報交換を通して協働の関係作りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に日常の健康管理や急変時の対応、医療機関との連携についてご家族に説明した上で意向を伺っている。入居期間が長くなったり状態が変化してきた方には、その時点で改めてご家族の意向を確認するようにしている。看取りについての指針作成、ご家族の意向を尊重して同意書を作成するようにしている。	重度化・終末期においては、施設指針・同意書を作成し、入居者・家族へ説明し同意も得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心で納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。支援が必要になった場合は、医師と24時間体制で連携を図り、家族の意向や状況の変化に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応方法を勉強会等で確認し合い、必要連絡先は常時電話機の傍に提示している。急変時の前触れとなる健康状態の把握についても、シグナルを読み取る事に努め、予防を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等を想定した避難訓練は防火管理者研修を修めた職員を中心に企画し、年2回行っている。災害対策マニュアルを作成し、地域施設と連絡を取り、非常時避難先の確保もできている。	自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署に届け出の下、火災想定訓練や消火器訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法を身に付けている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように、常に尊厳を守って接するように心がけている。勉強会などで話し方、接し方を学び、個々が自由に過ごせるように努めている。	理念に基づき、入居者一人ひとりの尊厳を大切にした支援を実践している。また、マニュアルを整備すると共に、研修を実施しており、全職員が人格の尊重やプライバシー保護の意義を理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できるように、一人ひとりに合わせ支援している。ご利用者の話を遮ることなく受け止め、上手く表現できない方はその方が理解できる声かけをし、表現される様々な事から想いや希望を受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、レクレーションへの参加など毎日のこともご利用者本人のご希望、状況に合わせた支援を行っている。何をするにもまず声かけから始まり、一人ひとりの反応や希望を考慮し、その日その時のご本人の意向に添って過ごせるよう努めている、		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりのおしゃれ、身だしなみなどの好み、生活習慣を継続して楽しむことができるように支援している、理・美容もご本人が望む馴染みのお店に行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の商事は配食サービス(食材)に依頼しているが、定期的に、特にコロナ禍はせめて食事を楽しんでいただけるようにご利用者の好みに合わせたテイクアウト商品を利用したり、ご利用者様と一緒に手作りメニューを考案し、変化のある食事を楽しんでいただいている。職員が一緒に食事をしながら様子を見守り、必要に応じた支援を行っている。準備や片付けも個々の能力に応じたい対応を行っている。	献立作成と食材については、業者を活用しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。食事提供の場面においては、入居者の個々の力を活かしながら職員と共に協働で行っている。現在、新型コロナウイルス感染対策の為、外食は中止しているが、月2回のお楽しみランチ・手作りおやつ・テイクアウトの活用等で対応しており、バラエティーに富んだ食事提供を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通した食事・水分摂取量を確認し記録している、一人ひとり食べるペースや体調に合わせた声かけ、見守り、介助を行っている。水分は1日少なくても800mlは摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し、個々の能力に応じた見守りや介助を行っている、義歯は夜間預かり消毒している、レクレーション時に口腔体操も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録することで排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促している。夜間もトイレ誘導を行い、個々の能力に応じた支援を行っている、	排泄チェックリスト表等を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、適切な排泄を支援している。また、食事や水分に配慮していると共に、運動を取り入れる等、便秘の予防・対応に取り組んでいる。必要に応じて医師や看護師に相談を行い、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事・水分摂取量が確保されるように注意している。また、楽しいながら運動できるように支援している。便秘傾向の方には適切な下剤使用を工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。湯の温度や洗い方などの要望を聞きながら、入浴剤や季節に合わせた菖蒲やゆずなども利用し、入浴を楽しめるよう支援している。リフトを設置し、浴槽をまたげなくなってしまった方にもゆったりと湯船で温まってもらえるよう支援している。また、入浴を拒まれる方には無理強いせずシャワー浴や清拭などでも対応している。	入居者の希望や体調に応じて、適切に入浴を支援している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴も実施しており、入居者の清潔保持に努めている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を実施しており、入浴の楽しみも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の心身の状態に応じて、個々の生活パターンに休める場を設けるように支援している。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜間眠れない方にはリズム作りの支援を行うなど、できるだけ薬に頼らず安眠できる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理はできるできないに関わらず職員が行っている。ご利用者の使用している薬の内容はファイルしてあり、すぐに確認ができるようになっている。ご利用者個々の能力に応じた服薬支援を行っており、服薬に注意が必要な場合は情報共有し、症状変化の確認に努めている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者本人・ご家族から得た情報を活かし、入居前に楽しまれていたことは続けられるように支援している。また、できる能力は最大限に活かしていただけるような役割を持ってもらうようにしている。季節や外の空気を感じ喜びにつなげる事ができるよう、ドライブや散歩もよく行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月毎の行事担当者がその季節やご利用者の希望に合わせ、花見や寺社参拝に出かけたり、外食に出かけている。気分転換を図り馴染みの場所をドライブしたり、馴染みのお店に買いも二出かけるなどの支援を行っている。コロナ禍でもドライブは続けているが、ご家族との外出は控えていただいている。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に入居者の希望や季節等に考慮しながら外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。併設施設との合同行事等で交流の機会があり、入居者の楽しみとなっている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外出行事や交流は中止している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対しての想いは個々によって異なり、管理能力も異なるため、他者とのトラブル回避のために職員が預かり、必要に応じて使えるように支援している。所持金がないと不安を訴える方には万が一紛失しても構わない程度のお金をご家族承諾の上持っていただくなどの対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が電話をかけたいと希望する時には本人の想いに応じて支援している。ご利用者宛ての手紙などは、本人が読めない時には代読するなど、必ず届くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには食事がとれるテーブルの他にソファがあり、共有スペースの中でもお好みの場所でゆっくり寛げる空間作りに努めている。壁にはご利用者と共に作成した季節ごとの作品を飾り付けるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、各居室からの生活動線を広く取るよう配慮している。	施設は、平屋建てのバリアフリーで、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル等を設置し、自由にくつろげる環境整備がなされている。開放的な窓の向こうにウッドデッキが設置され、日向ぼっこやお茶飲み等が可能となっており、入居者の楽しみの場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が大きなホールになっており、そこに食事をするテーブルとソファがあり、仲良しグループや余興のお好みの合う者同士など、その時のご利用者の関係性や行動に合わせて家具を移動するなどしている。一人静かに新聞を読む方には、職員が一人の空間を保てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に長年使い慣れた家具や好きな写真などを持ち込んでいただき、安心でき居心地よく過ごしていただけるようにしている。ご自分おお部屋に愛着を持っていただけるよう、またご自分のお部屋がすぐにわかるように部屋のドアにはその部屋を利用する方が見えやすい大きさ高さで名前を貼ったり、わかりやすいマークをつけている。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。ポータブルトイレやテレビを使用する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室には、鍵や収納が設置されており、個々のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置やテーブル、椅子の高さなど、ご利用者が適切に使える状態になっているかを職員間で確認している。トイレや浴室には見えやすい場所に案内を表示し、個々のお部屋にも本人の名前や写真を貼るなど、ご利用者がわかりやすいような環境作りに努めている。		